

# 波乱万丈の一代記『落第社長のロシア貿易奮戦記』



## - 岩佐毅の「孫に残す私の履歴書」 - 講演会

7月23日京都市四条河原町のレストラン「キエフ」(歌手・加藤登紀子さんの長兄が経営)において、岩佐毅著『落第社長のロシア貿易奮戦記』を語る講演会が開催されました。このレストランが定期的に行っている文化サロン「ロシア研究会」第27回例会のこの講演会には、ほぼ満席の約50名の聴衆が集まり大盛況のうちに幕を閉じました。

参加者は美味しい本場のロシア料理とグルジアワインに舌鼓を打ちつつ、笑いあり！感動あり！の岩佐さんのドラマティックな「天国と地獄」の実体験的講演に熱心に耳を傾けていました。

今年3月に展望社から出版された彼の自叙伝的著書『落第社長のロシア貿易奮戦記』を一読すると、ジェットコースターに乗って岩佐さんの人生の追体験をしているような感覚に襲われます。昭和18年に戦争で傷ついた故郷岡山の片田舎に生を受けた闊達な少年時代に始まり、神戸市外大ロシア学科に「サクサク」の電報を受け取り喜んで入学するも、学資が続かずアルバイトに明け暮れるも、大恋愛の末学生結婚し、留年の末苦勞して卒業。その後、神戸所在の白系ロシア人経営の商社勤務を経て7年後に起業、年商20億円を突破する企業に急速に大きく成長させました。しかし、思いがけずソ連崩壊の煽りを受けて20年後に倒産し、正に一瞬にしてすべてを失いました。そして、その後病魔にも苦しみつつ再起を決意し、ありとあらゆるアルバイトで糊口をしのぎ、そののち得意なロシア語会話力を生かして通訳、翻訳業に従事しながら、再び自動車関連ビジネスでの成功を勝ち取りました。そして、現在ロシアとのビジネスを安定軌道に乗せ、その傍ら「関西日露交流史研究センター」を立上げ、日露文化交流の架け橋となるべく日々邁進していること.....。

講師のそれぞれの興味深い実体験にもとずきながら、本書では語り尽くせなかった貴重なエピソードが随所に織り込まれ、特に、ソ連海運省との事業提携やクーデター発生からソ連崩壊に至る現場を目撃した様子の臨場感ある語りは、歴史の生き証人そのもので、驚きと感動を禁じ得ませんでした。

講師のお話がかくも読者や聴衆を引き付けるのは、岩佐さんの人生にあるのが華やかな成功談だけではないからでしょう。ほろ苦い失恋話や自己破産の地獄やその後の臥薪嘗胆の苦勞をも包み隠さず明快に語ってしまう豪快さもさることながら、岩佐さんの「現在」が、あくまでも「地道な努力」と「人情」に裏打ちされていることは、例えば学生アルバイト時代、「風前の灯」状態だった小さな学習塾を自らの足で懸命にポスター貼りやビラ配りを行い、短時間で生徒を約100名にまで増やしたエピソードからもよくわかります。そして、単に金稼ぎのためだけの塾ではなく、共働き等で放課後に行き場のない多数の子供たちの状況を鋭敏に察知し、地域の母親たちとともに学童保育所開設運動に立ち上がって署名運動を展開し、ついにはその地域に公立の学童保育所開設を実現させるなど、既に「実業家」の顔を見せた岩佐さんの「人のために役立つ」という信条がよく垣間見えたお話だったと思います。また、驚くべきことに、現在流暢に彼が駆使しているロシア語は全く「耳から覚えた」そうで、苦学生だった岩佐さんは大学でロシア語を身につけたのではなく、白系ロシア人経営の商社に勤務中、神戸港などに停泊しているロシア船舶に、文字通り「体当たり」で注文を聞きに行くうちに耳から実践的に覚えていったというのです。後に様々な分野の通訳業や文化交流にも携わっておられますが、臆することなく何事にもチャレンジする精神にも圧倒される思いでした。



ちなみに、日本ではロシアは「おそろシア」などと言われ、ロシアは暗く怖く冷たい国民性と思われ、あまり人気のない国ですが、岩佐さん曰く、ロシアで「怖いもの全くない」そうです。唯一あるとすれば青い目で、金髪の美しい「ロシア美女」のみだとか。(確か、3月の著書出版記念パーティーの際、華麗に舞い踊るロシア民族舞踊ダンサーチーム「カチューシャ」の綺麗どころを見て、誰かがふと「岩佐さんはいつも美女に囲まれている」と羨まし気に漏らしていましたが)この一言で会場は一気に笑いに包まれました。そして、今回の講演会会場には京都在住ロシア人女性でロシアカルチャーセンター京都代表で、しかも、日本舞踊を舞うという金髪をなびかせたヴィクトリアさんの姿も見え

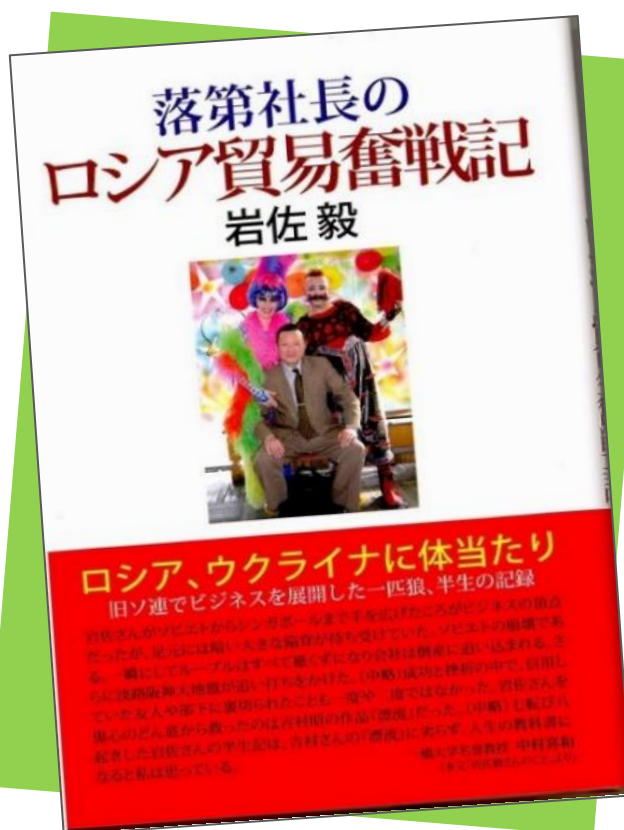
注目が集まりました。岩佐さんの場合、要するにパワフルなロシア美女たちをも見事に味方につけ、日露交流の更なる発展に邁進しているのです。

また、既に著書を手にした女性ファンからサインを求められ、熱烈なハグ(抱擁)をお見舞いされるという微笑ましいハプニング！？もあり、とても和気あいあいの楽しい会となりました。講演のサブタイトルには「8人の孫に残す私の履歴書」とありますが、娘さんご夫妻も応援に駆けつけられ、温かいご家族の様子に会場がほっこりとした雰囲気になったのが印象的でした。最後には、「とにかく人生は、失敗したり、落第したり、失恋したり、例え病魔に襲われても『七転び八起』で再び立ち上がることも努力次第で可能です」という力強い言葉に、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。

(神戸市外国語大学講師 榎本真奈美)

全国大型書店、Amazon、  
その他ネット書店にて  
好評販売中！！

出版元: 展望社



税込2052円